



「名村テクニカルレビュー」 第17号発刊に際して

取締役 常務執行役員 力武 光男

この度「名村テクニカルレビュー17号」が発行の運びとなりました。1998年の創刊以来、一度の休刊もなく継続し発行できていることは、研究開発を専門とする組織を持たない弊社にとって、執筆者の一人一人が日常業務以外の時間に自分自身に大きな負荷を掛け、技術力向上をめざし取り組んだ結果であり、関係者の一員として喜んでおります。

さて、弊社グループの主力である新造船事業においては、少し前まで取沙汰されておりました「2014年問題」がアベノミクスによる円高是正によって解消されたようにみえます。しかしながら、慢性的な供給過剰は解決しておらず、生き残りをかけた熾烈な生存競争が続いております。

この生存競争は、新造船事業のみならず、弊社グループのあらゆる分野においても状況は同じであると言えます。生存競争に勝ち残るために必要なものはなにか、お客様に「選ばれる」ために必要なものはなにかを考えると、製造業である弊社にとってそれは「技術開発力」「コスト競争力」をもって、「信頼性の高いお客様が求めるものをつくる」ことであり、この顧客満足の向上を常に突き詰めていくことでもあります。

この原点である「技術開発力」「コスト競争力」を高めるためには一人一人がやるべきことをしっかりと行い、常に問題意識を持ち課題解決や改善に努め、集団としての総合力、企業競争力の向上に繋げていくことが肝要であると考えます。

本号に掲載された論文は問題意識をもち課題解決、改善に努めた執筆者たちからの寄稿です。弊社グループ員全員が日常の業務において同様に問題意識をもち、突き詰めて改善してゆけば、この生存競争も必ずや生き残れると信じています。

本号の発行時には10月1日から統合している佐世保重工業の皆さんとも目的を共有した生き残り、成長戦略の道への取り組みを既にスタートしているところです。新たな視点での取り組みは刺激になり、励みにもなり、相互にシナジー効果を生み出し、総合力を高めるものと疑いません。

日々の努力は楽な道は無く苦しいものです。ですが後に振り返ったとき、自身の成長を実感し、必ずや大きな喜びにつながるものです。名村テクニカルレビューが継続し発行できていることは弊社グループ員全員、それができる証左でもあるはずです。

最後になりましたが、弊社グループのさらなる成長のため、本誌を読まれた多くの皆様から、忌憚のないご意見、ご批判を頂ければ幸いです。

今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。